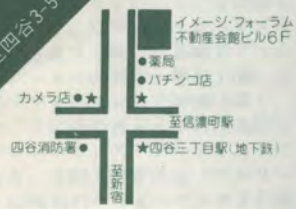
IMAGE FORUM

VOL. 45
IMAGE FORUM
1984
JUNE & JULY SCHEDULE
シネマテーク・ディレクター■中島崇・池田裕之

6→7

編集発行■イメージ・フォーラム　〒160 東京都新宿区四谷3-5 不動産会館6F ☎03-358-1983



地下鉄丸の内線・四谷三丁目駅
下車徒歩1分　03-358-1983

IF シネマテーク NO.334　5月31日(木)—6月3日(日)

料金●600円(会員＝500円)
時間●5時・7時(日曜＝1時・3時)

第49回 新作ショーケース

Toten Tanz ●三木仁　8㎜　20分
変形作品第1番・マティエール ●黒坂圭太　8㎜　15分
練習作品第1番・解体新書'84 ●黒坂圭太　8㎜　3分
衝 ●森中将仁　8㎜　3分
24± ●柴田良二　8㎜　4分
一年の孤独 ●中村和夫　8㎜　7分
高カロリー低タンパク ●保田夏代　8㎜　15分

IF シネマテーク NO.335　6月7日(木)—10日(日)

料金●600円(会員＝500円)
時間●5時・7時(日曜＝1時・3時)

マルコム・ウォング作品集

ハワイ国籍の映像作家マルコム・ウォングの新作初公開。フィルムで撮影されビデオの効果を生かして、独得な幻想的画面をつくりあげる。

凍りついた冬 VTR　15分　1984
失敗の不安 VTR　62分　1983

●失敗の不安

IF シネマテーク NO.336　6月14日(木)—17日(日)

Aプログラム(平日＝4時30分・日曜＝1時)
Bプログラム(平日＝7時・日曜＝3時30分)
料金●600円(会員＝500円)、A・B通し券＝1000円

パーソナル・フォーカス'84

福岡で6回目を重ねた3分間映画特集、74作品の一挙上映。関西、関東からの作品も集まり、その領域は年々全国に広まってきた。8ミリ映画の一大イベント！

3分間フィルム74作品 ●8㎜　1984

※上映作品は右欄に掲載してあります。

No.334 新作ショーケース

Toten Tanz●題名はドイツ語で「死んだダンス」の意。写真の中に写っている"妹"の面影を素材に、映画がすすんでいくうちにその存在が現実的な肉体に移り変わっていく。人物を記号的に配したプロットは仲々ユニークで、映像も自らアプローチした特殊アニメ撮影が生きている。

変形作品第1番——マティエール／練習作品第1番——解体新書'84●この音楽の曲のような題名は、この映画の最も特徴的な音楽的リズムを象徴しているといってよいだろう。『**変形作品**——』は、作者自身が描いたおびただしい数の抽象画を独得なリズムをもってコマ撮りした作品。作者はイメージ・フォーラム付属映像研究所の学生。『**練習作品**——』は課題で与えられた「人間に踏み込む」というテーマに基いて作られている。発想の斬新さに注目。

衝●短いカットの蓄積で構成されるこの映画がトータルに示しているものは"生命の皮膚"である。人間の肌の表層、無機質な仮面の肌の表層、その殻に包まれた"肉体"の内部はどろどろとした液体だった——。作者が初めて作った映画とは思えないほど、イメージは洗練されている。

24±●アニメーション80の新作作品から一本。映画の最も基本的な原理をついたこの映画は、映像機器開発の会社に勤める作者の、いかにも彼らしい発想の作品だ。なんといっても映画の中途で一瞬出てくる"電球"の出現の仕方が良い。スクリーンは観客も照らす。

一年の孤独●時節の移り変わりをいつも変わらぬアングルで眺めた一年間の記録。大いに想像力をかりたてるのは、対面のビルの窓の中の人々の生活だ。が、しかしカメラは決してその窓に近寄ることがない。観察者はいつも孤独に、三脚にセットした8ミリ・カメラの位置を動かさないように最大の神経を払って、延々と自室に閉じこもっていなければならない。

高カロリー低タンパク●この作者はいつも絵日記を描くように映画を作る。余分な作為がないところに、すがすがしさを感じる。友人たち、友人たち、友人たち……。いとこの結婚式。綺麗に着飾った自分の肖像。終わりもなければ始まりもない、人生の生活のほんの一部が、とても楽しく写し出されている。

No.335 マルコム・ウォング

⑥⑧I—72 ——小嶋哲生
⑥⑨イタリアン・ファンタジー ——福山静子
⑦⓪FALLING ——森優一
⑦①口述器(スピーク・ライト) ——中村隆敏
⑦②閉じろ、あけるな ——首藤啓
⑦③MY SONG '84 ——森田淳壱
⑦④眼界境域　FIRST SIGHT OF VIEW ——福間良夫

●は?

No.337 スールン・ホアス

『鳩間島』についてのノート

初めて沖縄に旅行したのは、私が東京で生活していた頃の1977年だった。その時偶然に鳩間島(沖縄南方にある八重山群島の西表島近くの小さな島)を訪れたのだった。極端な過疎化、生徒が2人しかいない学校の島——。この島に私が最も興味を覚えたのは仮面だった。私の研究テーマである、民俗芸能のなかで使われている仮面である。いつかこの島の記録映画を撮ろうと決心したのだった。

78年2月に故国のオーストラリアに帰るついでに沖縄に寄り、買ったばかりのキャノン・スクービックで鳩間島の撮影を始めた。私が生れて初めて撮った16ミリ・フィルムだった。その一部は『**水を待ちながら**』の冒頭シーンで、台風一過の光景、新しい開発業者、タコを刺し身用に調理する場面などが使われている。三脚も使わず、音も録らずに撮影をすすめていった。

本格的に鳩間島の映画を作るつもりで日本に戻ったのが78年9月、以来81年まで6度にわたり延べ7ヵ月島で過ごすことになる。撮影は何段階かにわけて行なわれる。『**水を待ちながら**』では初期の頃のフーテージ、『**荒々しい巫女**』では後期の撮影部分を多く使っている。調査期間中、私はいつも一人で撮影していたので、同時録音は全てできなかった。しかし、それが映像に対する音の実験を多少可能にしてくれる結果にもなったのだ。

『**荒々しい巫女**』の画面外の会話は主として二人の女性によるものである。映画の冒頭に登場する大城泰子とその従姉妹大城幸子(那覇存在で"ゆた"と呼ばれる巫女でも

身の作家を〈トムトムクラブ〉という名称で括ることもできるが、今回は厳密(?)なメンバーによる、純トムトムクラブ作品集である。

物語・改訂版●ヴォネガットの『母なる夜』に出てくる、かわいそうなレシ＝ノト、それから題名をとった。また、Récit というフランス語がある。つまり物語。カミュの『転落』は物語だと佐藤朔はいった。ひとふで書き、夢の力よ、いっきにつくれ！　という映画である。(星野秀夫)

馬の耳と東風●『どてらワルツ』や『くずれてサンバ』を制作して注目を集めた高城千昭と同クラブの中心的存在である西山洋一が共作した。独得な画面展開で不思議なニュアンスを生む高城の映像と日記そのものを素材にした西山のシナリオとのかみ合わせが妙。

紐で吊られる瓶●この映画は、「かりそめの平和を享受している現代日本社会においてアイデンティティを喪失しがちな我々の内的構造を"瓶"という空虚な事物に仮託しつつ、それが尚"紐で吊られる"事によってギリギリの存在基盤を保持し続けることの不安と希望」を描いた。(西山洋一)

あゆらぎ●作者は、これまで撮影あるいは録音といったパートを数多く担当。自らの作品としては初めてである。映画とは無関係な場で生じる感動をどこまで「映画の呼吸」として画面に定着させるかがテーマ。

うし●アルタミラ洞窟の"牛"を動かす"イベント的試み"。『リトル・ウィング』や『殺人教室』などで知られる作者初の短編アニメーション。

マルセイユの死神●何者かに追われ、命が長くないことを悟った混血のチンピラが一夜を共にした娼婦に語る"伝説"。チンピラの祖父はその昔マルセイユで「死神」と渾名され、人々から恐れられたギャングだった……。(里亮弘)

夜は千の目を持つ●複雑なストーリーを撮る段になってしまうと、どうやって筋道をたてて、わかりやすく説明するかを案ずるばかりだ。何か色気をだせば、たちどころに話はわからなくなる。こちらの手ちがいさえなければ、これはことによると、全篇説明ショットの映画ではなかろうか。(高橋洋)

No.340 スタン・ブラッケージ

後続世代のモデル——視覚の詩人ブラッケージ……西嶋憲生

〈もし真の個人的創造、真の実験、深い芸術的経験について語るなら、レネやアントニオーニばかりでな

3分間フィルム74作品——●8㎜　1984

※上映作品は右欄に掲載してあります。

IFシネマテーク NO.337

6月21日(木)—24日(日)

料金●600円(会員＝500円)
時間●4時30分・7時(日曜＝1時・3時30分)

スールン・ホアス作品集

沖縄南方の孤島鳩間島で、オーストラリアの女流作家が5年間かけて撮影した記録映画が完成！不思議な霊能力を持つ女性たちにスポットをあてる。

鳩間島——16㎜　カラー　121分

第1部●水を待ちながら——27分　1981
第2部●時間は掴めない——8分　1981
第3部●尼僧と商店主の一人二役—30分　1983
第4部●荒々しい巫女——56分　1983

●鳩間島・第4部・荒々しい巫女

IFシネマテーク NO.338

料金●600円(会員＝500円)
時間●5時・7時(日曜＝1時・3時)

位相機械ユニット作品集

異色の学生映画サークルとして期待される法政大〈位相機械ユニット〉。同サークル初の試みとして、秀作『革命前夜』など意欲的な作品群を一挙に上映！

プログラムA——**6月28日(木)・29日(金)**

思ひ出——●清水一哉　8㎜　13分　1983
VIVOの時代——●坂口一直　8㎜　34分　1984
革命前夜——●暉峻創三　8㎜　52分　1982

プログラムB——**6月30日(土)・7月1日(日)**

空はいつでも脳天気●御茶屋圭　8㎜　13分　1983
女と男——●首藤啓　8㎜　3分　1983
声と現象——●曳地信明　8㎜　20分　1983
Still Life——●暉峻創三　8㎜　38分　1981
志賀直哉物語——**ダンスの弾道学**——●安井豊作　8㎜　20分　1984
ブラームスを愛する●暉峻創三　8㎜　7分　1984

IFシネマテーク NO.339

7月5日(木)—8日(日)

料金●600円(会員＝500円)
時間●4時30分・7時(日曜＝1時・3時30分)

トムトムクラブ作品集

学生映画の雄、早大シネマ研究会出身者によって結成された〈トムトムクラブ〉初のグループ展。これは彼らの作品制作を続行する旨の決意表明である。

物語(しぐ)・改訂版——●星野秀夫　8㎜　20分　1981～84
馬の耳と東風(トンプー)——●ヨーイチアーキ兄弟　8㎜　15分　1984
紐で吊られる瓶——●西山洋一　8㎜　15分　1984
あゆらぎ——●黒羽敏之　8㎜　10分　1984

一部が、とても楽しく写し出されている。

No.335 マルコム・ウォング

マルコム・ウォング(Malcolm S. Wong)はハワイに住む中国系のアメリカ人である。一時ニューヨークに渡って映像を学び、ハワイに戻って初めて自主制作をしたのが『**失敗の不安**』だった。
私の乏しい想像力ではハワイというとワイキキの浜辺ぐらいしか思い浮かばないが、都会(ホノルル)の社会的背景をとり入れたこの作品は、きわめて斬新に思えたのだった。騒々しい街並、アパートの中の生活の模様……ここに現われる場所は東京の都心やあるいはその郊外とさして変わりない風景である。一人の東洋人の青年を主人公にして、現実と幻想空間が交互に往復していく映像の小気味よいリズムによる巧みな場面転換は、時にしてハッとさせる魅力がある。それは街の坂をゆったりとした速度で歩いている青年の後姿の場面の次にまるで照明弾でも落とされたようにホノルルの町全体が明滅してしまう場面や、白人の大男の肩に手をかけようとするといきなり殴られるといった場面だった。日常生活の中でたとえ些細なことでもいつも何かの行動を起こす時にふっと現われる不安、そんな予感めいたイメージがすっすっと映画の中に挿入される。これはたぶん人種を越えて誰もが持っている体験ではないだろうか。
ウォングの映像は変幻自在に動きのスピードを変える。映像を言葉と変化させる行為においてこれが実に魅力的なのだ。オリジナルはフイルム、それをビデオで編集する段階で丁寧にワンカット・ワンカット作り上げている。(中島崇)
凍りついた冬●作者が約一年間大阪に住んで撮った作品。「おおまかに言うと、この作品の形式は日本のテレビ番組の午後の15分間ドラマにヒントを得たものである。主題は、過去をふりかえる一人の中年の男が、過去からどんなふうに現在をつくりあげているかということだった。しばしば断片的でつながりもなく、もうろうとした記憶の現象をとおして、文化的価値がめまぐるしく変わりゆく現代の日本を認識しようとした」(マルコム・ウォング)

No.336 パーソナル・フォーカス

Aプログラム

❶3月18日・犬——今井えりか
❷サマー・ボート——大川戸洋介
❸B・L・U・E・R・O・C・K・II——小田隆幸
❹SO……——塩屋光一
❺YES NO すき きらい——高向一成
❻ラ・レ・ル・レ・ロ——豊福一史
❼UNTITLED——平尾薫
❽ヒソウ——福島玲子
❾La palette——岩尾康代
❿虚構の影—SHADOW BY SHADOW——板山信一
⓫PSYCHOPATHIA SEXUALIS——CAT HOUSE
⓬MIND TRIP—Private Image Project
⓭三角形の法則・2——木塚忠広
⓮映画の冗談・愛情の羅列編——池田裕之
⓯OUT OF VIEW——稲垣貴士
⓰When you're smiling—大森道郎
⓱I—MA——白黒川薫
⓲わが窓より——進藤真理
⓳気流—AIR CURRENT——ノトヨシヒコ
⓴デザート——渡辺宏
㉑rit.——毎原敦子

『荒々しい巫女』の画面外の会話は主として二人の女性によるものである。映画の冒頭に登場する大城泰子とその従姉妹大城幸子(那覇存在で"ゆた"と呼ばれる巫女でもある)の二人。声はふつう話している人物の映像の上にかぶさっている。もう一つの声は巫女の声である。
私の興味は、その地方の文化研究にてらして"正しい"とされることではなく、私が出来事として見たり感じたりしたことを提示することにある。石垣島の地方史家は、女性は魚釣りのかごを編まないと言ったが、私は鳩間島でそれをやっている女性を撮影した。例外もまた規則と同じくらい正しいのである。『**荒々しい巫女**』の中で女性たちがしていることは、規範ではなく例外である。彼等の宗教感は様々な影響のごった煮だし私は彼等を典型的な人物として描くことはしなかった。私が最も興味をそそられるのは、自分たちのしていることに対して彼等がもっている強迫観念であり、また、過去というものの存在に気づいていく彼等の個人的なアプローチの仕方である。
(スールン・ホアス)

No.338 位相機械ユニット

位相機械ユニットは、82年に開講された柄谷行人の《記号論》の授業参加者によって、いわゆる"柄谷行人同好会"として発足した集団だと言う。その後、新たな同志の加入とともに次第に同志間での談話が映画の事で占められるようになってきた。不思議な話である。実際にいくつかの作品もつくられてしまった。最初からとりたてて何の目的もなく始まったこの集団だが、現在になっても、一体全体、正確に言って誰がメンバーなのか、その数は何名なのか、何をしようというのか、全ては決定不可能性の世界にあるようだ。でもそういう錯綜した中に、とりあえずこの辺りがそれなのだろうと思わせるある種の地帯、繋がりの線があって、人はそれを触知した時、「位相機械ユニット……」と呟いてみせたりしている。
思ひ出●ネオン街と学校の校舎を移動撮影で捉えたショットがいきなりカットバックされ、〈思い出〉は一人の女性がアルバムを見るところから始まる。過ぎ去った恋の回想を、象徴的なスチール構成によって浮びあがらせる件はスリリングである。
空はいつでも脳天気●「なんかつまんないなあ」という女の子のセリフが主旋律。競技場を駆け巡ったり、草原で横転したりする〈開放的な動き〉が、セリフの閉鎖性を強調している。作者は、位相機械ユニットただ一人の女性作家で、この作品は自作自演。
VIVOの時代●「今やコーラの時代でもヤクルトおばさんの時代でもない。VIVOの時代なのだ。」清涼飲料水が主役という奇抜な発想によって作られたこの作品は、劇映画タッチ、ホームムービータッチ、ドキュメンタリータッチなどさまざまな手法が交錯、はたまたCFまで飛び出してくるという波乱に富んだ映像の洪水。
革命前夜●リアルな時間をそのままに写し取ろうとする、この作者の姿勢が顕著に表われた作品である。革命集団は目的も思想も明らかにされていないが、その行動の一断片を徹底して追いかける手法は斬新だ。
女と男●ショッキングなナレーションと男の首をしめるショットの反復によって構成。音と画、あるいは音と音、画と画の奇妙なズレ

後続世代のモデル——視覚の詩人ブラッケージ……西嶋憲生

《もし真の個人的創造、真の実験、深い芸術的経験について語るなら、レネやアントニオーニばかりでなく、何よりもまずブラッケージを語らねばならない》このメカスの言葉には少しの誇張もない。100本を越す長・短編という驚くべき量を貫く彼の作品の〈質〉の新しさこそ、映画史的事件となったのだ。主観的カメラワークによる心理劇(『Desist film』)からドキュメンタリーと抽象フォルムの結合(『The Wonder Ring』)をへて、三脚から解放されたカメラはすばやいパンで現実をよぎり、短いカッティングでリズミックに組立てられる。夜の幻想と主人公の自殺衝動とが激しく、また静かにからみ合う『**夜への期待**』で、ブラッケージは自分のオリジナルな表現衝動にふさわしい〈新しい映画フォルム〉を獲得する。かつてないカメラ、レンズ、フィルム、プリントの用法から、彼は未知の映画的美しさと抽象的・詩的表現の基礎をひき出したのだ。
ブラッケ三ジの独創的で徹底した作風には、日記映画から知覚映画まで、さまざまの映像表現のエッセンスがあり、後続世代のモデルとされたが、彼自身が自らのフォルムを発展し探究し続けているのでその作品は常に若々しく新しい。自然への愛情、その奔放さ、官能性などの点でジャン・ルノワールとも共通するこの〈視覚の詩人〉を僕は心から尊敬している。

No.341 レベッカ・ホルン

フィルム・スクリプト1982—1983からの覚え書(新作『フェルディナンダー』制作のために映画シーンのイメージを書き留めたもの)
▼ロサンゼルスからさほど遠くないところにあるその別荘は、20世紀の変わり目に建築された。自殺してしまった女優の私有財産だったこの土地を、ある医者が20年代の初めに買い取ったのだった。医者はその女優が亡くなったあと、ここをごく個人的な療養所に変身させてしまう。神経をいらいらさせる俳優たちの逃げ場として、たぶん終わることのない人生の危機から逃れるほんの一時しのぎの場として。
▼その屋敷は高いフェンスと庭一面に繁生した植物によって、外界とは完璧に遮断されている。細い小道は庭を横切りプールに向かっていて、さらに降りていくと穏かに波打っている大海の入江がある。
▼このやすらぎの場は、様々な新しい治療法を見い出すために何年もの間たくさんの医者が寝泊まりしていた。過去には有名な患者も何人か療養していて、その証拠に、サインや物証が数々残されている。その一人がバスター・キートンだった。キートンは30代にしばしばアルコールの誘惑に負けてしまい、何週間かここで回復を待った。けれどもとうとう彼はわずらわしい患者服から逃れるために、最上階の窓のひさしから脱出を図ったのだった。以来10年間、この患者の部屋は一切手をつけられずに閉じられたままになっていたのである。
▼二階のホールでは、音楽を口ずさみタップ・ステップをしながら医療器具を積んだワゴンを押している二人の看護婦が、患者の部屋に向かっているところである。金髪で釣り合いのとれた姿、菜食主義に憧れている女たちだ。隣りの部屋からピアノ曲が聞こえてくる。不愉快なタップの靴の音と共に。
▼一日中ソファーに坐ったきりのイタリアでもアメリカの映画女優

馬の耳と東風(トンプー)
●ヨーイチアーキ兄弟　8㎜　15分　1984
紐で吊られる瓶●西山洋一　8㎜　15分　1984
あゆらぎ●黒羽敏之　8㎜　10分　1984
うし●島田元　8㎜　3分　1984
マルセイユの死神●里亮弘　8㎜　10分　1984
夜は千の目を持つ●高橋洋　8㎜　70分　1984

●夜は千の目を持つ

1F シネマテーク NO.340

7月12日(木)—15日(日)

料金●600円(会員＝500円)
時間●5時・7時(日曜＝1時・3時)

スタン・ブラッケージ 1954—1979

『クリエーション』は、純粋に視覚的にみて、ブラッケージの最も美しい作品の一つである。処女作から最新作に至るまでを網羅。

デジスト・フィルム●8分　黒白　1954
ワンダーリング●6分　カラー　1955
騎手・女・蝦●19分　カラー　1968
クリエーション●16分　カラー　1979
サガ(伝説)●30分　カラー　1970

1F シネマテーク NO.341

7月19日(木)—22日(日)

料金●各プログラム600円(会員400円)

	A	B	A
19日(木)—21日(土)	3:00	5:00	7:00
22日(日)	1:00	3:00	5:00

来日記念プログラム　東京ドイツ文化センター共催

レベッカ・ホルン

ボイス以降の西ドイツでは最も重要なパフォーマーとして知られるレベッカ・ホルンの最新映画作品。来日を記念して話題の『フェルディナンダー』公開！

Aプログラム

フェルディナンダー——メディチ家の別荘のためのソナタ (La Ferdinanda—Sonate für eine Medici—Villa)
16㎜　90分　カラー　1982～83

Bプログラム

ベルリン——ユーブンゲン (Berlin—Übungen)
16㎜　45分　カラー　1974～75
アインテンツァー (Der Eintänzer)
16㎜　45分　カラー　1978

●フェルディナンダー

⑲気流—AIR CURRENT——ノトヨシヒコ
⑳デザート——渡辺宏
㉑rit.——毎原敦子
㉒捜査——中島崇
㉓めもわある・PART・1—大浦吾
㉔どらみんぐ——池田順子
㉕Landscape——上永竜三
㉖ある風景III——松尾雄一
㉗SAUCES——吉住美昭
㉘DELAY EXPOSURE 松本俊夫
㉙アマルガムII——土佐尚子
㉚ichimatsu——稲本伸一
㉛dog dekan——大橋勝
㉜Face——風間厚子
㉝は？——宮本初音
㉞コロコロ族III——中村修治
㉟河のほとりで……—高村紀一郎
㊱MOVING——山田けい子
㊲マイ・フレンズ——宮田靖子

Bプログラム

㊳……？(DX)——仁比器
㊴廃坑——北原敏
㊵REEL——中原玲子
㊶ねこ色の肉欲——武藤起一
㊷Mon Mon——山口真幾子
㊸オムライスきいた？——井上裕
㊹十月の林檎——飯面雅子
㊺KEN——KEN
㊻Potation Matrix—くがいゆたか
㊼AUT OF F-F——出渕亮一朗
㊽a film articulated——山野真悟
㊾DO ; DO ; ME——石川悦美
㊿マインド——木原弘喜
(51)Supersonal Focus—新川あるび
(52)たま・ころがし——山本由也
(53)Violet Twinkle——前野りりえ
(54)Ray Gun——柴田良二
(55)Flickertimescape——江上計太
(56)風の使者 パート1——高島雅之
(57)I wait……——西田宣善
(58)永遠への長い道——松村隆毅
(59)Aesthesiogene——森下明彦
(60)風沢中孚—極狂遊民カチカチ山
(61)見る事と感じる事—大崎利三郎
(62)75.0㎝——渡辺茂子
(63)スマイルズ——木原延昭
(64)かくれんぼ COLD TURKEYII
(65)B′——かわなかのぶひろ
(66)Close Echo III——宇佐美陽一
(67)Silver Days——えとううんべい

女と男●ジョッキングフレーションと男の首をしめるショットの反復によって構成。音と画、あるいは音と音、画と画の奇妙なズレが巧みに統合されていく様は、見る者を間断なく緊張させる。

志賀直哉物語●志賀直哉と彼の妻、そしてもう一人の女性との関係が作品の土台になっている。物語はこうした人物の会話によって展開されていくが、目を引くのはワンシーンワンカットの、凝縮され奥行きのある映像である。音の使い方にも注目。

ブラームスを愛する●第1部と第2部に分かれているが、とりたてこれといった事件はおこらない。この平凡な話は、ふつう映画が拒絶してきた部分ではなかろうか。意識的に周縁を描こうとするカメラワークも、規格品にはありえないみずみずしさに溢れている。

Still Life●『革命前夜』のあの独得な長いカットワークの原型となった作品。大学の数室、喫茶店、窓から見える田園の風景——。変哲もない日常の光景を、ありのままの時間でリアルに写し出している。モンタージュとは一体何なのか、果たして考えに考え抜かれたモンタージュなど必要だったのか？そんなことを考えさせられる映画だった。

声と現象●ほとんど記号的な配列で綴られているこの映画は、きっとあらゆる映画の形式を排除しその上に新たな形式を見いだそうと意図しているに違いない。

No.339 トムトムクラブ

〈トムトムクラブ〉は早大シネ研出身者による映画集団であるが、彼らがまとまって作品を発表するのは今回が初めてである。メンバーの一人が間借りしているアパートが高田馬場駅に近いため、終電に乗り遅れた連中が替わるがわる泊り込んでるうちに結成されたこのグループの総勢は10名程。大半がいったん就いた職を離れアルバイト中である。広い意味では山川直人をはじめとする早大シネ研出身者。

●ショッキングフレーション　男の首をしめるショットの反復によって構成。音と画、あるいは音と音、画と画の奇妙なズレが巧みに統合されていく様は、見る者を間断なく緊張させる。

志賀直哉物語●志賀直哉と彼の妻、そしてもう一人の女性との関係が作品の土台になっている。物語はこうした人物の会話によって展開されていくが、目を引くのはワンシーンワンカットの、凝縮され奥行きのある映像である。音の使い方にも注目。

ブラームスを愛する●第1部と第2部に分かれているが、とりたてこれといった事件はおこらない。この平凡な話は、ふつう映画が拒絶してきた部分ではなかろうか。意識的に周縁を描こうとするカメラワークも、規格品にはありえないみずみずしさに溢れている。

Still Life●『革命前夜』のあの独得な長いカットワークの原型となった作品。大学の数室、喫茶店、窓から見える田園の風景——。変哲もない日常の光景を、ありのままの時間でリアルに写し出している。モンタージュとは一体何なのか、果たして考えに考え抜かれたモンタージュなど必要だったのか？そんなことを考えさせられる映画だった。

声と現象●ほとんど記号的な配列で綴られているこの映画は、きっとあらゆる映画の形式を排除しその上に新たな形式を見いだそうと意図しているに違いない。

部屋からピアノ曲が聞こえてくる。不愉快なタップの靴の音と共に。

▼一日中ソファーに坐ったきりのイタリア系アメリカ人の映画女優の手に、一匹の蝶がふんわりと止まった。二人の看護婦のタップ・ダンスが部屋中にかん高く響く。女優はため息をつきながら薬を受け取り、最も親しい友人であるかのように気を遣いながら看護婦に二度三度身をひき寄せる。

▼ピアニストは一日中びったりとピアノに取り組んでいる。この上なく精神を集中して、彼は面白くもないパフォーマンスのノートを書くことに専念した。看護婦のタップはぐっとソフトになる。ピアニストは怒ってパフォーマンスのプランニングを中断し、急いでドアーを閉めるように看護婦に要求する。さもなければ、彼のピアノは隙間風で冷たくなっていただろう。(レベッカ・ホルン)

●レベッカ・ホルン(Rebecca Horn) 1944年ミッシェルスタッドに生まれる。ロンドンのDAAD奨学生として学んだ後、72年にはニューヨークに滞在、数多くのパフォーマンスを行いビデオ作品も手がけた。以後、ドイツ—アメリカを往復する間に、各地で「ベルリン—9つの習作」等を上演。このパフォーマンスの評価は高く、ボイス以降の西ドイツの代表的なパフォーマンス・アーティストになる。今回上映される『ベルリン』は彼女のパフォーマンスを記録した映画作品、『フェルディナンダー』は35㎜で制作され、一般劇場でも公開されている話題の最近作だ。

●アインテンツァー

月刊 イメージフォーラム 1984 NO.46 7 JULY
6月1日発売
定価750円
ダゲレオ出版
〒160東京都新宿区大京町4 ☎03-357-8046

マキノ・ゴダール・ヒッチコック

ついにやってしまった3大特集。《聞書き日本映画史》特別篇・マキノ雅裕インタビュー一挙掲載。《ドキュメント・ゴダール》第二弾は『カルメンという名の女』の批評に、映像と音をめぐるインタビューを「カイエ・デュ・シネマ」誌より訳載。《ヒッチコック・リヴァイヴァル》をいま、どう捉えるか!? 本誌独自の切り口でアプローチします。

好評《フォーラム・ジャーナル》ほか、各種映画、ビデオ・パフォーマンス等々の情報も満載!!

SUMMER SCHOOL
イメージ・フォーラム 夏期特別講座 受講生募集中！

1F シネマテーク NO.340

7月12日(木)—15日(日)

料金●600円(会員=500円)
時間●5時・7時(日曜=1時・3時)

スタン・ブラッケージ 1954—1979

『クリエーション』は、純粋に視覚的にみて、ブラッケージの最も美しい作品の一つである。処女作から最新作に至るまでを網羅。

デジスト・フィルム	●8分	黒白	1954
ワンダーリング	●6分	カラー	1955
騎手・女・蛾	●19分	カラー	1968
クリエーション	●16分	カラー	1979
サガ(伝説)	●30分	カラー	1970

1F シネマテーク NO.341

7月19日(木)—22日(日)

料金●各プログラム600円(会員400円)

	A	B	A
19日(木)—21日(土)	3:00	5:00	7:00
22日(日)	1:00	3:00	5:00

来日記念プログラム　東京ドイツ文化センター共催

レベッカ・ホルン

ボイス以降の西ドイツでは最も重要なパフォーマーとして知られるレベッカ・ホルンの最新映画作品。来日を記念して話題の『フェルディナンダー』公開!

Aプログラム

フェルディナンダー——メディチ家の別荘のためのソナタ (La Ferdinanda—Sonate für eine Medici—Villa)
16㎜　90分　カラー　1982～83

Bプログラム

ベルリン——ユーブンゲン (Berlin—Übungen)
16㎜　45分　カラー　1974～75

アインテンツァー (Der Eintänzer)
16㎜　45分　カラー　1978

●フェルディナンダー

㊲マイ・フレンズ——宮田靖子

Bプログラム

㊳……?(DX)——仁比器
㊴廃坑——北原敏
㊵REEL——中原玲子
㊶ねこ色の肉欲——武藤起一
㊷Mon Mon——山口真幾子
㊸オムライスきいた?——井上裕
㊹十月の林檎——飯面雅子
㊺KEN——KEN
㊻Potation Matrix—くがいゆたか
㊼AUT OF F-F——出渕亮一朗
㊽a film articulated——山野真悟
㊾DO;DO;ME——石川悦美
㊿マインド——木原弘喜
(51)Supersonal Focus—新川あるび
(52)たま・ころがし——山本由也
(53)Violet Twinkle——前野りりえ
(54)Ray Gun——柴田良二
(55)Flickertimescape——江上計太
(56)風の使者 パート1——高島雅之
(57)I wait……——西田宣善
(58)永遠への長い道——松村隆毅
(59)Aesthesiogene——森下明彦
(60)風沢中孚—極狂遊民カチカチ山
(61)見る事と感じる事—大崎利三郎
(62)75.0㎝——渡辺茂子
(63)スマイルズ——木原延昭
(64)かくれんぼ COLD TURKEYII
(65)B′——かわなかのぶひろ
(66)Close Echo III——宇佐美陽一
(67)Silver Days——えとううんぺい

ラワークも、規格品にはありえないみずみずしさに溢れている。

Still Life●『革命前夜』のあの独得な長いカットワークの原型となった作品。大学の数室、喫茶店、窓から見える田園の風景——。変哲もない日常の光景を、ありのままの時間でリアルに写し出している。モンタージュとは一体何なのか、果たして考えに考え抜かれたモンタージュなど必要だったのか? そんなことを考えさせられる映画だった。

声と現象●ほとんど記号的な配列で綴られているこの映画は、きっとあらゆる映画の形式を排除しその上に新たな形式を見いだそうと意図しているに違いない。

No.339 トムトムクラブ

〈トムトムクラブ〉は早大シネ研出身者による映画集団であるが、彼らがまとまって作品を発表するのは今回が初めてである。メンバーの一人が間借りしているアパートが高田馬場駅に近いため、終電に乗り遅れた連中が替わるがわる泊り込んでるうちに結成されたこのグループの総勢は10名程。大半がいったん就いた職を離れアルバイト中である。広い意味では山川直人をはじめとする早大シネ研出

アーを閉めるように看護婦に要求する。さもなければ、彼のピアノは隙間風で冷たくなっていただろう。(レベッカ・ホルン)

●レベッカ・ホルン(Rebecca Horn) 1944年ミッシェルスタッドに生まれる。ロンドンのDAAD奨学生として学んだ後、72年にはニューヨークに滞在、数多くのパフォーマンスを行いビデオ作品も手がけた。以後、ドイツ—アメリカを往復する間に、各地で「ベルリン—9つの習作」等を上演。このパフォーマンスの評価は高く、ボイス以降の西ドイツの代表的なパフォーマンス・アーティストになる。今回上映される『**ベルリン**』は彼女のパフォーマンスを記録した映画作品、『**フェルディナンダー**』は35㎜で制作され、一般劇場でも公開されている話題の最近作だ。

●アインテンツァー

月刊 イメージフォーラム 1984 NO.46 7 JULY

6月1日発売
定価750円
ダゲレオ出版
〒160東京都新宿区大京町4 ☎03-357-8046

マキノ・ゴダール・ヒッチコック

ついにやってしまった3大特集。《聞書き日本映画史》特別篇・マキノ雅裕インタビュー一挙掲載。《ドキュメント・ゴダール》第二弾は『カルメンという名の女』の批評に、映像と音をめぐるインタビューを「カイエ・デュ・シネマ」誌より訳載。《ヒッチコック・リヴァイヴァル》をいま、どう捉えるか!? 本誌独自の切り口でアプローチします。

好評《フォーラム・ジャーナル》ほか、各種映画、ビデオ・パフォーマンス等々の情報も満載!!

SUMMER SCHOOL

イメージ・フォーラム 夏期特別講座 | 受講生募集中!

フィルム・ヒストリー ●実験映画入門

8月2日(木)—4日(土)・6日(月)—8日(水)　6日間/6時～9時

講師=**西嶋憲生**(月刊イメージ・フォーラム編集長)・**中島崇**(映像作家)　実験映画のルーツは果たしてどこにあるのか?　もう一つの映画の歴史を古典から最新作まで10時間の参考作品を通して探る。受講費=9,400円(テキスト代含)

16㎜映画制作講座

8月10日(金)・11日(土)・13日(月)・14日(火)・16日(木)—21日(火)　10日間/6時～9時(土・日は12時)

講師=**鈴木志郎康**(詩人・映画作家)・**渡辺哲也**(映像作家)　カメラ、フィルムの特性、あらゆるケースに備えてデータを出しながら講座をすすめます。受講費=29,000円(フィルム、現像費含む)。他にテキスト代(2,500円)要。

ビデオ・ワークショップ

8月22日(水)—30日(木)　9日間/6時～9時

講師=**かわなかのぶひろ**(映像作家)　VTRの構造と技術的ノウハウなどの操作はもちろんのこと、講座終了時までにビデオ作品を完成することを目的としています。受講費=24,000円(機材費、テープ代を含む)。

◉募集要項　定員=各30名　受講資格=経験の有無、年齢等は一切問いません。募集期間=6月10日～7月31日(先着順)。

◉受講手続き　申し込書に記入の上、受講料と共に提出して下さい。郵送の場合は現金書留で。申し込み書はご請求下さい。

◉講座会場　イメージ・フォーラム(地下鉄丸の内線・四谷三丁目駅前)　〒160 東京都新宿区四谷3－5　不動産会館6F　TEL. 03(358)1983